

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

サステナビリティ教育計画 (概要版)

2025年3月策定
公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

サステナビリティ教育計画 概要

- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、サステナビリティ戦略、実施計画等の内容を踏まえて、サステナビリティ教育に関するアクションの実施計画や評価等を記載した「サステナビリティ教育計画」を2025年3月に策定。
- 調達コードの策定・運用や、主催者展示等を通じた情報発信、学生との連携、職員への研修等をはじめ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進。

記載項目	概要
1 はじめに	教育計画の目的として、本園芸博の準備、開催運営等を通じ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進することを設定
2 実施計画	サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティ教育に関する目標・アクションと、追加を含めた計22のアクションについて、実施計画等を記載。また、実施スケジュールをガントチャートで整理
3 評価	「2 実施計画」に記載したアクションのうち、教育計画の策定時点で実施したアクションについて、評価を記載

1 はじめに

- **教育計画の目的**として、本園芸博の準備、開催運営等を通じ、**全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進**することを設定。

主な記載項目	概要
目的	本園芸博の準備、開催運営等を通じ、 全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進 する
対象者	<ul style="list-style-type: none">● 実施計画で設定した、以下の9つのステークホルダーから対象者を設定 来場者、出展者等、ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO、事業者、有識者等、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ等● AIPHが特に重視する対象者に対しては、以下のようなアクションを実施<ul style="list-style-type: none">✓ 来場者 主催者展示、公式参加者（国・国際機関）の出展、花・緑出展、Village出展等を通じた情報発信等✓ 建設・施設管理者 工事、アクセシビリティ等のガイドライン等の策定・推進等✓ 国内外のスタッフ ISO20121*の認証取得・運用、協会職員への研修の実施等✓ ボランティア ISO20121*の認証取得・運用等

2 実施計画（アクション一覧）

- サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、**サステナビリティ教育に関する目標・アクション**と、**追加を含めた計22のアクション**を記載。

サステナビリティ実施計画の目標	アクション
水消費量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漏水消費量の削減対策の実施
脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの削減対策の実施
省エネ型の設備の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー使用量の削減対策の実施
周辺環境への影響の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事に関するガイドライン等の策定・推進
持続可能性に配慮した建設資材の調達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知
食品ロスの削減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食に関するガイドライン等の策定・推進
ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO20121の認証取得・運用
（教育計画の策定に伴う追加的アクション）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協会職員への研修の実施 ・ 資源循環の関係対策の実施 ・ 開催1000日前イベントの実施 ・ 県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携 ・ 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進 ・ ヨコハマ未来創造会議との連携 ・ 大学共創フォーラムの開催 ・ 教育プログラム コンセプトブックの活用 ・ 主催者展示を通じた情報発信 ・ 公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信 ・ 花・緑出展を通じた情報発信 ・ Village出展を通じた情報発信 ・ グリーンインフラの情報発信

2 実施計画（アクションの記載項目、ガントチャート）

- 各アクションについて、**実施目的、責任者、方法、メッセージ、主な対象者、対象人数、タイムライン（頻度・時期）**等を記載。
- 各アクションの実施スケジュールを**ガントチャート**で整理。

主な記載項目	概要
実施目的	アクションの実施目的
責任者	アクションを実施する責任者
方法	アクションの実施方法
メッセージ	アクションを通じて主な対象者に発信するメッセージ
主な対象者	アクションの主な対象者
対象人数	定義した対象者の人数
タイムライン（頻度・時期）	アクションを実施する頻度や時期等のタイムライン

- 「2 実施計画」に記載したアクションのうち、教育計画の策定時点で**実施したアクション**について、**日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）**の評価を記載。

主な記載項目	概要
日程	アクションを実施した日程
実施人数	アクションを実施した対象人数
振り返り（良い点、改善点）	アクションを実施した振り返り（良い点、改善点）

- **教育計画には、以下のような具体的なアクションを記載。**
 - 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用
 - 主催者展示を通じた情報発信
 - 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」

【事例】 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用

- 協会や出展者等が、物品・サービスの調達や工事の実施等に当たって遵守する「**持続可能性に配慮した調達コード**」を2024年1月に策定。
- 東京オリパラ、大阪・関西万博では、**5つの共通基準、6つの物品別の個別基準を設定**しており、本園芸博においても重要な内容のため、先行事例に準じて策定。
- また、物品別の個別基準には、**新たにGREEN×EXPO 2027ならではの「7植物」を設定**。
- **調達コードの周知・普及等のため、事業者や出展者等に対して説明会等を実施。**

項目	GREEN×EXPO 2027の調達コードの構成
持続可能性に関する基準 (共通基準)	全ての物品・サービス・工事等に共通して適用される 5つの共通基準を設定 1 全般、2 環境、3 人権、4 労働、5 経済
物品別の個別基準	重要な物品・サービス・工事等については、 7つの物品別の個別基準を設定 1 木材、2 紙、3 農産物、4 畜産物、5 水産物、6 パーム油、7 植物

【事例】 主催者展示を通じた情報発信

- 主催者展示は、**本園芸博のテーマを体現する**国際園芸博覧会のシンボルとなる展示。
- 一人ひとりが**自然との共生の重要性**に気づき、「**自分にとっての自然とのつながり方**」を発見し、**意識変容・行動変容のきっかけ**となる**展示体験**を創出する。



【事例】 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」



- 神奈川県立の農業高校5校の生徒計49名による、未来のための共創プロジェクト。
- 花や緑、農・食の未来を牽引する次世代のリーダーの育成を目指し、本園芸博について学び、積極的に参加できる場として活動を実施。
- 2024年6月に、博覧会協会でプレゼン発表会を開催。
- 2024年10-11月には、全国都市緑化かわさきフェアと連携し、庭園を出展。

